**＜論文要旨＞**

**統合報告の有用性とその考察**

**－大王製紙コーポレートレポートの事例分析から－**

**鈴木浩二**

四国大学附属経営情報研究所客員研究員

【要旨】

　本研究では、大企業を中心に発行する企業が増加している統合報告について意義と目的を述べる。それを基に大王製紙のコーポレートレポート2016を分析することで、統合報告の必要性や有用性を探っていく。とくに近年、有価証券報告書や会社計算書類だけでは企業価値を判断することは非常に困難である。そのため、非財務報告を含む統合報告書が、企業価値を知る上で重要であると考えた。そこで、事例分析を行うことで中小企業やベンチャー企業にとっていかに統合報告が有効なディスクロージャーとなるかの考察を行う。

非財務情報による企業価値の実証と財務情報の有用性について考察を行った。その結果企業の個性や性格が理解できるようになり、企業のビジョンや社風、経営者の考え方、戦略、持続可能性努力、社員の状況、コンプライアンスの取り組み等、財務諸表には出てこない「見えざる資産」を企業価値として評価することができるようになる。として結論づけた。